

令和3年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる
「共同研究班」 研究報告書

令和 4 年 7 月 25 日現在

研究課題名	スラブ・ユーラシア地域におけるメディア文化史の共同研究		
担当者	氏名		所属機関・職
	1	野町 素己	スラブ・ユーラシア研究センター・教授
	2	安達 大輔	スラブ・ユーラシア研究センター・准教授
班員	氏名	所属機関・職	専門とする研究分野
	平野 恵美子	中京大学教養教育研究員・特定任用教授	19世紀末から20世紀初頭 ロシア芸術文化研究
	研究テーマ		
	19世紀末から20世紀初頭ロシアにおける舞踊・美術・音楽を中心とした芸術文化研究		

研究成果の概要

本年度もコロナ禍の影響を少なからず受けた。スラブ・ユーラシア研究センターへの訪問は1回のみであり、海外ゲストによる講演会もオンラインで行われた。一方、オンラインで行われることにより、国内外からの参加者が聴講可能という利点が今回もあった。本年度は昨年度同様に、英国ヴィクトリア・アルバート博物館の世界的に著名なダンス・キュレーターである Jane Pritchard 氏と、同じく著名なダンス・ジャーナリストで、マリウス・プティパ（1818-1910）の評伝を著した Nadine Meisner 氏をゲストに迎え、オンライン・レクチャーを開催した。

Pritchard 氏は、知られるバレエ・マスター（作品を演出・振付するバレエ団のトップ指導者）、アレクサンドル・シリャーエフ（1867-1941）の業績について講演した。マリウス・プティパはロシア帝室劇場で《眠れる森の美女》《白鳥の湖》などを創り、今日のクラシック・バレエの代表作のほとんどを手掛けた。だが、19世紀以前のバレエ作品の正確な振付記録はほとんど残っていない。シリャーエフは人形アニメーションという当時は画期的な方法を使って、プティパの振付作品を後世に残すことに貢献した。また、20世紀初めに有名な興行師 Edouard Fazer によって、プティパの作品がロシアの外で上演された時、シリャーエフはダンサー兼バレエ・マスターとして参加した。その後、アンナ・パヴロワのバレエ団とスタジオで、主役ダンサーおよび指導者を務めたことなどが明らかにされた。ダンスの映像化が重要視され、またバレエ作品復元への関心が高まっている現在、シリャーエフの仕事は再評価されるべきであり、今回の講演ではシリャーエフの遺産を、おそらく日本で初めて本格的に紹介した。

Meisner 氏は、パリ・オペラ座やロシア帝室劇場で、舞踊手兼バレエ・マスターとして活躍したアルテュール・サン＝レオン（1821-1870）について報告した。サン＝レオンは、ロシアではプティパの前に帝室バレエ団の首席バレエ・マスターを務めた。だが、ロシア・バレエ史のコンテキストではそれ以上多くを語られることはあまりない。Meisner 氏は、サン＝レオンが出版し

研究成果の概要（続き）

た2冊の本について述べた。『舞踊譜(La Sténochoregraphie) (Paris, 1852) と『今日のバレエ・ダンスを取り巻く状況について (De l'état actuel de la danse)』 (Lisbon, 1856)である。前者は、彼自身が編み出した舞踊記譜法、「舞踊譜(la sténochoregraphie)」を紹介し、その方法の詳細について記したものである。2冊目は、彼が生きた時代のバレエ・ダンスを取り巻く状況を、フランスに焦点を当てながら、検証している。サン＝レオンは当時のパリは、舞踊を上演できる舞台が少なかったこと、舞踊学校の質の低さ、ひいては規範化された教育システムの不足について述べ、このことにより舞踊記譜法の普及とそれに基づく訓練の必要性を指摘した。また、生徒のための返還型奨学金の可能性についても触れている。これらは現代の舞踊界にも通じる問題である。サン＝レオンのこうした業績、また彼の用いた舞踊記譜法が紹介された、大変有意義な講演だった。いずれの講演における議論も大変盛り上がった。

平野自身は、昨年を引き続き、SRC 附属図書館で Искусство и художественная промышленность (芸術と美術産業) 誌に関する資料調査を行った。『芸術と美術産業』誌は、『芸術世界』誌を主催したセルゲイ・ディアギレフと対立したウラディーミル・スターソフと「移動派」による芸術上の主義主張や活動を、彼らが既に「主流」ではなくなったと考えられる20世紀初頭まで追うことができる貴重な資料である。今回は国内外の美術展覧会やコンクールに関する記事の他に、「トルストイによる芸術に関する書について (スターソフ筆)」、クズミンによるキエフでの考古学学会に関する記事ほかを収集した。ちょうどセンター滞在中の2月22～24日にロシアによるウクライナ軍事侵攻が始まり、感慨深い滞在になった。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。

（国際学会発表）"Marius Petipa's last choreography, 'The Magic Mirror', and its music by a forgotten composer, Arseniy Koreshchenko", The 10th World Congress of the International Council for Central and East European Studies, Concordia University in Montréal, Canada, August 7th, 2020. （謝辞無）

（図書）『パリ・オペラ座とグランド・オペラ』森話社、2022年3月（分担執筆：平野恵美子「ヴェルディと『オペラのなかのバレエ』」(392-415頁)、「ロシアのグランド・オペラとバレエ」(416-432頁)）（謝辞無）

（公演プログラム解説執筆）

・「『白鳥の湖』上演と振付の歴史」『白鳥の湖』吹田市文化会館メイシアター、2021年3月21日（謝辞無）

・「ミハイル・フォーキンと瀕死の白鳥」『TRIAD DANCE PROJECT [ダンスの系譜学]』愛知県芸術劇場、2021年10月1-3日（謝辞無）

（ゲスト監修）薄井憲二バレエ・コレクション 2022 企画展「バレエで描かれたインド ～想像と創造～」兵庫県立芸術文化センター、2022年1月13日-3月6日（謝辞無）

当該研究活動をもとに採択された研究プロジェクト（応募中の研究プロジェクトを含む）

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。